

なっとく
アドバイス

「美」へ扉 ～美容外科の基礎知識～

美容外科を理解するためには、どのようなことを、どんな環境で、どのような器具を用いて、どのような技術で行うのかを知る必要があります。

まず、形成外科と皮膚科は美容外科治療を行う上で、必ず習得すべき学問であり、技術です。

そのうち組織の血行、傷の治りの知識と技術のプロである形成外科が美容外科の基本となるのです。

そのほか、移植やマイクロナージャリー(※)など、多彩で繊細な基礎技術が、安全かつ満足度の高い美容を完成させます。そして美容外科はアート。より美しくなることはもちろん、日々の喜びを実感し、より快適にまた、前向きに生きるための治療なのです。

手術というものは軽々しく受けるものではなく、それは美容外科でも同様です。必ず丁寧なカウンセリングで納得できるまで計画を練り、治療にあたること。これが美容外科の手術成功の基本です。

また①手術前の日焼け防止②手術直後(出血予防、安静期)③術後3日～7日(抜糸時期)④3週間後(傷後が赤くなる時期)⑤6週間後(傷後が硬くなる時期)⑥3カ月から6カ月(傷後が落ち着いてくる時期)という手術期間中の各状態を理解することも必要です。

快適に生活できる「機能美」とは？

上まぶたの下垂、上・下まぶたの皮膚のたるみ、まぶたのゆるみ、逆さまつげ、また、二重にした人など、これらには方法に多少の違いがありますが、全般に「眼瞼形成術」を行うことで視野が開け、肩こり、頭痛まで治ることがあります。これこそ機能的美容手術の代表であり、特にシニアや眼瞼下垂の方にはおすすめの治療法です。また、一般的に二重は一重まぶたに比べて機能的ということができます。皮膚が二重にたくし上げられていることで、老いても皮膚が垂れ下がりにくいです。

ダイエツトが成功しなかった方、出産経験者などプロポーションが気になる場合は「脂肪吸引法」が効果的。一度体外に排出された脂肪組織は増加しないのです。またそれによって、食事、運動などのが倍加するケースが多いようです。また、豊胸術、隆鼻などによって、より美しいスタイルで女性としての自信を取り戻すことができます。

精神機能に影響する外見 小さな処置で気分一新

シミ、アザ、イボ、脱毛には「レーザー」が用いられています。それぞれ症状に応じて専用のレーザー機器があることも覚えておいて

とよいでしょう。

「レスチレン」、「ボトックス」などと呼ばれる、小ジワや表情ジワなどを注射で改善させる方法もあります。どちらも有効期間が3カ月から6カ月程度のもので、永久に効果があるわけではありませんが、紙の折りがせがとれるように、シワが深くなることの予防になります。「レスチレン」は皮膚内に、皮膚のシワの溝を浅くするヒアルロン酸と、皮膚の張りを作っている物質からできる人工コラーゲンを注射、肌の張りを保つ治療のことです。また「ボトックス」は表情筋をほどよく安定させる薬剤を注射することで、表情ジワを取り除き、深いシワを予防します。

年とともに訪れる老化現象 美しく年齢を重ねるには

予防には、紫外線を避け、日焼け防止をしたり、マッサージで血行をよくするなどスキンケアは大切なことです。しかしそれにもかかわらず、肌のたるみが気になったら「フェイシリフト術」。肌を張りを取り戻し、若さを保つことが出来ます。アメリカのある学者の論文によるとフェイシリフトを受けた人は、手術を受けなかった人より、最長9年間長生きできるといわれています。

※) 顕微鏡下で行われる外科手術



盛 虹明

盛-美容外科院長

嵯山西路1029号中電大廈1603室

021-5878-8183(中国語)

021-5878-8082(日本語)